

中山晋平宛書信（大正11年11月29日付）

四つばかりお送りします、「おはなし」を除く外はま  
だく御協議の上訂正すべき箇所があると思ひます。

「冬の星」は、素人考へでは、支那風の曲をつけたなら  
どんなものかと思ひます。「堤の貉」はおどけた中に、  
少し気味悪い幽闇とでもいふ趣きがあらうかと考へます。  
とにかく御叱正を願ひます。就ては、第一集の広告面  
へ予告が入る筈ですから、御選定の上、その名前だけな  
るべく早くハガキなりで御しらせ願ひたいと思ひます。

二十九日早朝

海野生

中山様

おはなし

おばさま おばさま

こんばんは、

こないだ、垣根の鬼灯が

赤い提灯、つけました

お家にや、涼しい風が吹き

玉蜀黍畑の姉さんは

もうせん お嫁に行きました

おばさま おばさま

さやうなら

冬の星

支那の居留地に支那の子が一人

日暮明りにたった一人

壁にもたれて後ろ手くんで

うつ、心にたった一人